

PRAEVIDENTIA DAILY (1月6日)

昨日までの世界：アブラカブダラー

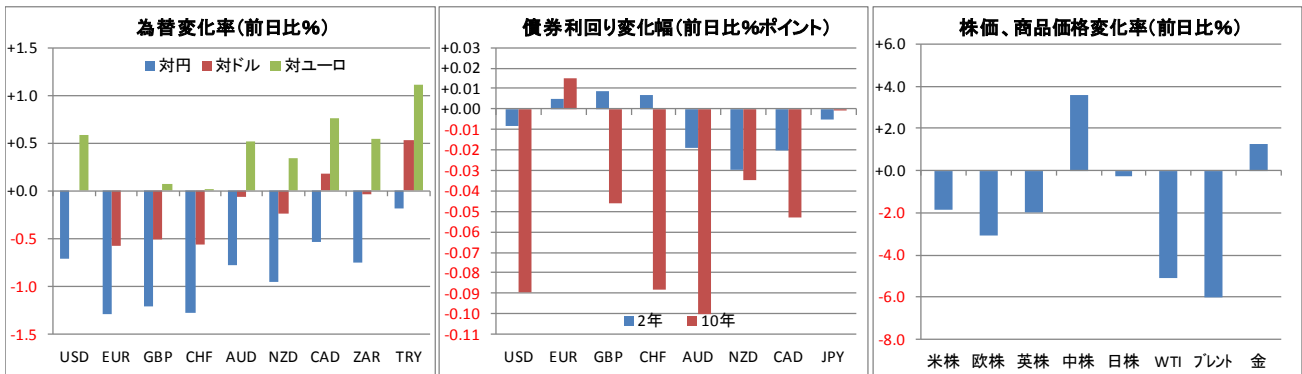
週明け5日は、原油安とギリシャ情勢懸念を受けた株安を背景に円が対主要通貨で買い戻され円全面高となったのが特徴的だった。原油価格が5%超下落して50ドル/バレルを割り込み、ロシアなど産油国経済への悪影響への懸念が高まったほか、エネルギー関連銘柄の下落が株価全体を押し下げる展開となり、ドル/円およびクロス円が全般的に売り圧力を受けたかたちとなり、アジア時間は概ね120円台前半で推移していたドル/円は欧米時間に一時119.38円へ下落した。

ユーロは、早朝に1.20ドル丁度近辺から1.1880ドルへ急落した後は反発し、アジア時間は概ね1.19ドル台半ばで推移した。その後欧米時間には、ギリシャ情勢への懸念に加えて、ドイツ12月HICPが前年比+0.1%と前月の+0.5%から大きく低下し、市場予想(+0.2%)をも下回り、ゼロに急接近したことも、量的緩和導入への期待感を更に高めユーロ安要因となり、再び1.19ドル割れへ下落した。但しNY時間引けにかけては1.19ドル台を回復している。ユーロ/円は、ドル/円の下落も重なってほぼ一方向の下落となり、144円台半ばから一時142.27円へ下落した。ギリシャ情勢について特段の追加材料はなかったようだが、週末3日の独 Spiegel 誌報道「独政府はギリシャ総選挙で SYRIZA が勝利した場合、ギリシャのユーロ圏離脱は避けられないと考えている」が尾を引いているようだ(4日に独政府は否定、ギリシャのユーロ圏残留を望む、としたが)。

ポンド/ドルは、英建設業 PMI の予想以上の悪化(57.6)が悪材料だったが発表直後に反応はなく、むしろユーロ/ドルにつれて続落し一時1.52ドルを割り込んだ。ユーロ/ポンド相場は概ね横ばい圏内の動きとなっている。

豪ドル、NZドルはアジア時間に対米ドルで続落し、豪ドル/米ドルは一時0.8034ドルと直近安値を更新、NZドル/米ドルは一時0.7616ドルと昨年12月9日の直近安値(0.7606ドル)に迫る水準へ下落した。但しその後欧米時間にかけては反発し、前日比概ね横ばい圏内での動きとなった。カナダドルは原油安にも拘らず対米ドルでむしろ小幅上昇した。他方、ロシアルーブルやメキシコペソなどその他の産油国通貨は下落している。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：原油安放置で限界に挑戦？

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、AUD↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 11 月貿易収支・豪ドル	9:30	-13.23 億		
中国 12 月 HSBC サービス業 PMI	10:45	53.0		
英 12 月サービス業 PMI	18:30	58.6	58.5	
米 12 月 ISM 非製造業景況指数	0:00	59.3	58.2	前月雇用指数は 56.7

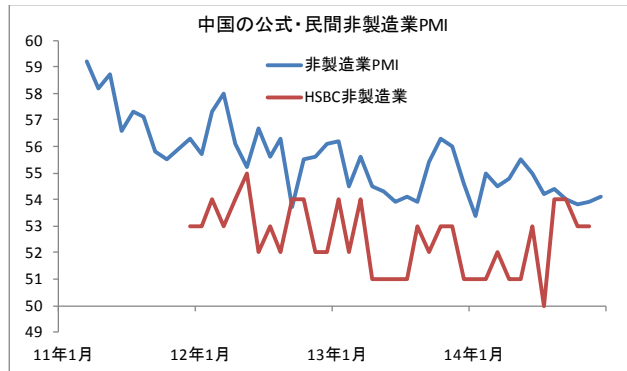
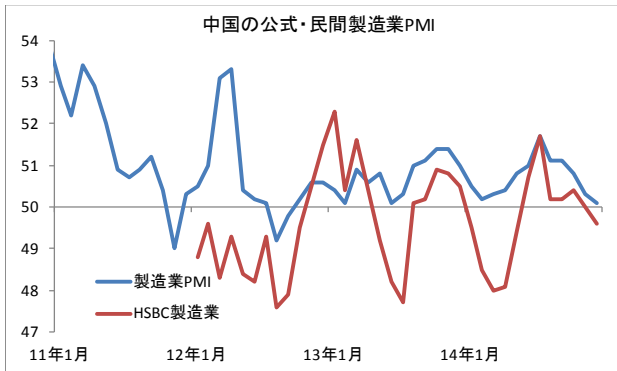
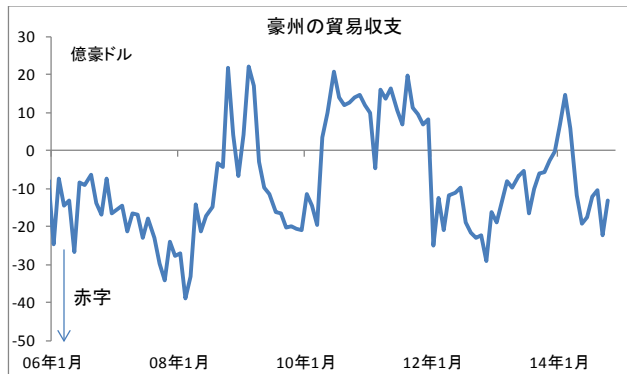
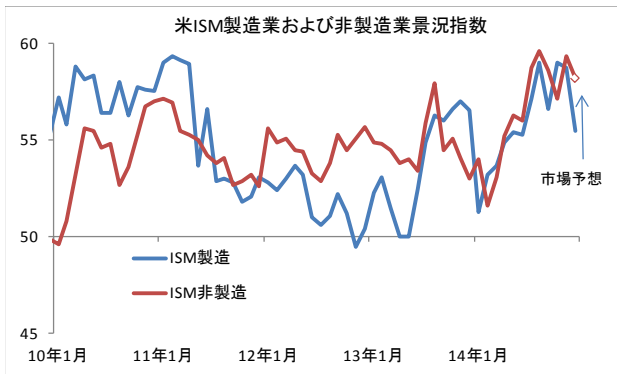
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日も引き続き、原油価格と日米株価動向が注目される。原油や日米株価が続落するようだとドル/円は119円丁度方向へ更に調整するリスクがある。昨日の米債利回りの動きを見る限り、10年債利回りは原油安、ギリシ

ヤ懸念、株安などを受けたセーフヘイブン需要で利回りが低下した一方、2年債利回りの低下は限定的で、米利上げ期待が大きく後退している訳ではなく、ドル高トレンドの背景要因が大きく崩れている訳ではない。とは言え、ドル/円はアベノミクス下での日経平均との高連動性もあって目先は地合いの悪さが続きそうだ。米経済指標面でも、本日発表予定のISM非製造業景況指数は既発表の製造業分と同様に前月からの悪化が予想され、ドル上値抑制要因となりそうだ。とは言え、ISM非製造業は予想通り悪化しても依然として50を大きく上回る高水準で推移しており（下図を参照）、かつ金曜に米雇用統計発表を控えていることもあり、この指標だけで米利上げ期待の後退・ドル大幅下落には繋がらなさそうだ。

豪ドルは豪貿易収支が注目される。昨年初は貿易黒字が急拡大し豪ドル先高観に繋がったが、足許は全くそういう状況にない。豪州ではこれまでの鉱山投資を受けて鉄鉱石などの生産能力が高まっており、輸出数量は増加見込みだが、鉄鉱石などの価格下落が大きいことから、足許は貿易赤字幅が大きくなっている（下図を参照）。昨年末の商品価格下落基調を考慮すると更なる赤字拡大のリスクもあり、その場合に豪ドルは特に対米ドルで下落が大きくなりそうだ。中国HSBC非製造業PMIは、今後中国が消費主導の経済に移行していけば重要度が増すはずだが、足許は動きが小さく、小幅改善が持続的なのか判断がつきにくく（下図を参照）、余程大きく市場予想から外れない限り相場材料となりにくそうだ。

ユーロも、特段追加材料は予想されていないものの、ギリシャ総選挙結果への懸念とECB量的緩和導入期待の高まりもあって、下落傾向が続きそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641